

# 専念寺通信

9月号 (NO.181) <http://sennenji.s296.xrea.com/>

9月に入り、すっかり秋めいてきました。各地が大雨に見舞われました。皆さまお変わりなくお過ごしでしょうか。

## ☆秋の彼岸

9月20日から、秋分の日を挟んで、1週間が秋のお彼岸です。お彼岸のお中日は昼の長さと同じになります。この日をさかいに徐々に昼は短くなり、季節は秋から冬へと向かっていきます。このお中日、太陽は真東からのぼり、真西に沈みます。太陽の沈む西にある**西方十萬億土**にある**極楽浄土**を思い描き、安楽国への往生を祈願する、夕陽の沈む光景を観じて、西方の極楽浄土を想うことを「**日想観**」といいます。彼岸の時期は太陽がまさしく真西に没することから、この日想観の修行にもっともふさわしい特別な期間とされてきたのです。「到彼岸」はサンスクリット語のパラミターの訳です。

## ☆六波羅蜜

サンスクリット語のパラミターはそのまま音訳されて「**波羅蜜**」という語になりました。その意味は、彼岸に至ること、理想を達成すること、完成することで、漢訳は「**度**」です。お彼岸の時期は**六度**、または**六波羅蜜**と呼ばれるこの徳目をいまいちど思い起こし、みずからの生きる姿勢をととのえるという、いわば仏道の実践期間ともいえるもうひとつの側面が

あります。六波羅蜜とは次の六つの徳目です。

**布施**：ふせ：与えること。財施（ものを施す）・法施（真理を施す）・無畏施（恐怖を取り除き安心を与える）の三種。

**持戒**：じかい：戒律を守ること。

**忍辱**：にんにく：苦難に堪え忍ぶこと。

**精進**：しょうじん：真実の道をたゆまず実践すること。

**禅定**：ぜんじょう：精神を統一させ安定させること。

**智慧**：ちえ：真実の智慧を得ること。

お彼岸の期間に、この中のひとつかふたつを試してみませんか。笑顔でいる、約束を守る、辛いことがあってもすぐに愚痴をいわない、本当のことは何なのかを探し実行する、気持ちを落ち着ける、たゆまず学ぶ、六つの徳目をこのように言い換えることも可能です。戒律の厳しかった時代の法然上人の次の言葉を紹介させていただきます。

「若し、**持戒持律**をもって、**本願**としたまはば、**破戒無戒**の人は、**定めて往生の望みを絶たん**。しかるに**持戒の者は少なく、破戒の者は甚だ多し**」困難な現実をまえにしてそれを甘受するのではなく、現実をしっかり相対して、自分＝人間の愚かさを謙虚に認め、仏の慈悲を信じて生きよ、と法然上人は説いたのです。私たち人間はさまざまな過ちをします。それを忘れず、智慧を得て、気持ちを整え、真実はどこにあるのかを求めていくことが何より大切です。私達の国が危険な方へとむかういま、仏教の持つちからが平和を守る支えになりますようにと祈願致します。

平成27年9月1日 大黒

